

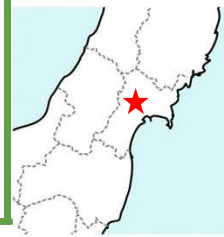
## R6開始

おおさきし

# 大崎市(宮城県)

## 主な品目

- 水稲



## 実施体制

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会(大崎市、宮城県大崎農業改良普及センター、宮城県美里農業改良普及センター、JA古川、JA新みやぎ、農業者、農機メーカー)

## 面積情報

有機農業取組面積:62.0ha  
耕地面積に占める割合:0.3%  
(令和5年度時点)

## 1 背景・課題

大崎地域は東北で唯一、世界農業遺産「大崎耕土」に認定されており、豊かな自然環境を維持しながら将来に亘って持続可能な農業を地域に定着させるため、環境保全型農業を広く普及している。一方、担い手の高齢化や不足が課題となっており、環境に配慮したスマート農業機器の導入等のコスト削減及び作業の効率化が重要となっている。

## 2 成果目標

### 有機農業の取組面積の拡大

R6年度 26.9ha → R11年度 40ha

### 有機農業に取り組む農業者数の増加

R6年度 20経営体 → R11年度 30経営体

## 3 主な取組内容

### 生産

- 自動抑草ロボットによる水田の雑草抑制
- スマホ水管理システムによる水田の水位等の把握及び遠隔操作
- 先進地視察による新技術の習得及び導入
- 講師を招いての生産者向けの講演会及び技術研修会の開催
- 緑肥ヘアリーベッチの栽培普及による無化学肥料化の推進(今後実施予定)

### 加工・流通・消費

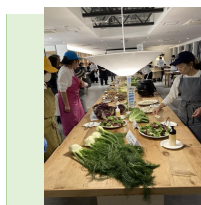
- 学校給食への有機農産物の提供及び生徒への講話
- 多くのバイヤーが注目する関東・関西への展示会、商談会への出展
- 市内及び首都圏での有機農産物等を利用した食のPR交流会の開催
- 海外輸出PRの実施



自動抑草ロボットとスマホ水管理システムを活用したグリーンな栽培により、雑草抑制と労力削減の推進。



中学校の学校給食に有機JAS認証米を提供し、併せて生産者による講話を実施することで有機農業への理解を深めた。



首都圏での市内有機農産物等を食にしたPR交流会の実施

## 4 これまでの成果

自動抑草ロボットと除草機での雑草抑制、スマホ水管理システムを活用した遠隔監視での労力削減の取り組み効果が出たことで、結果をまとめた有機栽培マニュアルが完成。

【有機栽培マニュアル】  
R6年度 1部

## 5 今後の展望

今後、生産された有機農産物の物流や販路確保を図るとともに、グリーンな栽培技術を活用した新規有機ほ場の確保、及び姉妹都市も含めた県内外の関係機関と連携した消費拡大に取り組む。

問い合わせ先

大崎市産業経済部農政企画課 TEL:0229-23-7090